

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水・2限	教室名	301
担 当 教 員	小松 弘子	実務経験とその関連資格	児童発達支援事業所めばえ 臨床心理士 公認心理師資格			
《授業科目における学習内容》						
心理学の基礎から応用まで、柔道整復師、スポーツトレーナーの業務に生かせる知識、技法などについて理論的に学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って心理学を学び、心理技法及びメンタルトレーニング、スポーツ心理に関連する技法を学習する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	動物と人間 人間発達のしくみ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	発達段階の心理学(乳児期～老年期)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	知覚の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	知覚の成立 3次元空間の成立 錯視現象 視覚以外の知覚			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	性格の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	性格とはなにか? エゴグラムから自分を知る			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	注意 記憶 記憶演習、実践 集中力をつけるトレーニング			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	学習とは 学習の形成 さまざまな学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感情と欲求の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	感情 欲求 自己評価を知り他者を知る演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の仕組み 心のバランス(心の適応と不適応) 心の病		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の治療 心理テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的認知 社会的自己 対人魅力		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的態度 同調と服従 群集心理		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	犯罪の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	犯罪の原因と防犯 さまざまな犯罪 非行・少年犯罪		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	環境とは コーチングについての演習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	スポーツと動機づけ 運動学習 メンタルトレーニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学の歴史	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心理学は19世紀中ごろに成立した 3つの勢力の出現 日本の心理学		

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木・3限	教室名	303教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、 元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
概ね講義形式で進める。ヒトの身体の構造としての解剖学に関する知識だけでなく、身体の働き、医学における解剖学の位置ならびに医学や医療の歴史における解剖学の役割やその概念の変遷についても理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験：100 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
基礎医学の中でも最も基礎的な分野ですが、単に器官の名前を覚えるだけでなく、それぞれの器官の役割や、疾病を予防し、健康を維持するために復習を忘れない。						
《履修に当たっての留意点》						
ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	人体の構造と組織の概要について理解する		教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
	各コマに おける 授業予定	解剖学総論				
第2回	授業を 通じての 到達目標	身体の機能を支える血液循環のしくみを理解する		教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
	各コマに おける 授業予定	脈管系総論				
第3回	授業を 通じての 到達目標	心臓の構造と各部位の特徴を、その機能から理解する		教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
	各コマに おける 授業予定	脈管系各論 心臓				
第4回	授業を 通じての 到達目標	小(肺)循環ならびに大(体)循環のうち動脈のあらましを学ぶ		教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
	各コマに おける 授業予定	脈管系各論 心脈管系①				
第5回	授業を 通じての 到達目標	大(体)循環のうち静動脈のあらましを学ぶ		教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小 テストの内容を復習・確 認する。	
	各コマに おける 授業予定	脈管系各論 心脈管系②				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	出生前後の循環系の差異、およびリンパ系の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	胎児循環・リンパ管系		
第7回	授業を通じての到達目標	消化器の構造を理解し、食物が通過する順位を告げれる	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器①		
第8回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、小腸と大腸の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器②		
第9回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、肝臓・胆嚢・脾臓の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器③		
第10回	授業を通じての到達目標	消化器のうち、口腔の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 消化器④		
第11回	授業を通じての到達目標	呼吸器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器①		
第12回	授業を通じての到達目標	呼吸器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器②		
第13回	授業を通じての到達目標	泌尿器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器①		
第14回	授業を通じての到達目標	泌尿器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器②		
第15回	授業を通じての到達目標	前期で学んだ内容について理解を確実にする	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
	各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	整復基礎実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技室2
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、専科教員資格、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員 医療法人淳良会 関目病院、橋本スポーツ鍼灸整骨院			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡで学んだ下肢の損傷に対する評価法・整復法・固定法についての実技を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
試験点数100%にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	股関節の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	股関節の機能解剖			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	股関節の損傷①			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	股関節の損傷②			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	股関節の損傷③			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	膝関節の損傷①			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	膝関節の損傷②			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	膝関節の損傷③			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	膝関節の損傷④			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	足関節の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	足関節の機能解剖			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	足関節の損傷①			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	足関節の損傷②			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	足関節の損傷③			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	足関節の損傷④			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	後期学習内容の復習を行い理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	後期まとめ			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 金・1,2限	教室名	303
担 当 教 員	池上直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改正版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ						
《履修に当たつての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	柔道整復師の歴史について理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師術、柔道整復師の沿革1				
第2回	授業を通じての到達目標	柔道整復師の業の成り立ちについて理解を深める		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	柔道整復術、柔道整復師の沿革2				
第3回	授業を通じての到達目標	人体にどのような外力が加わり組織が損傷するのか理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	人体に加わる力、損傷時に加わる力の理解				
第4回	授業を通じての到達目標	痛みの評価について学ぶ		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	痛みの基礎について				
第5回	授業を通じての到達目標	骨折にはどのような分類があるか。骨折の種類について。		柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	骨の概説、骨折の分類、種類				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折線の入り方、骨折の部位にどのような特徴があるかを学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の分類(骨折線の方法による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、力の働き方による分類、骨折部の部位による分類)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折の一般症状と固有症状について理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナー
	各コマにおける授業予定	骨折の各症状の理解。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(併発症、続発症)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(後遺症)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 小児の骨折と成人骨折の特徴の理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	小児骨折		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 高齢者の骨折についての理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	高齢者の骨折、骨折の癒合日数。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折はどのようにして治癒していくのか、治癒過程の現象を組織学的に理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の治癒過程、骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 関節についてその構成組織について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	関節の構造と機能、関節を構成する組織。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 関節損傷とはどのようなものか、どのような組織を損傷するのか。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	関節損傷の概説、関節損傷の分類、損傷される組織、関節構成組織損傷。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 靭帯の治癒機序についてその過程や予後について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(損傷の程度による分類、靭帯損傷の治癒過程、経過と予後)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期 火・3限	教室名	体育館
担 当 教 員	上瀧 亨	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復専科教員免許・柔道6段			
《授業科目における学習内容》						
<p>整復臨床実技において修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(投げの形、実戦形式での受身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。なお、柔道実技審査に向けた指導をし、習得させる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
認定実技審査の項目						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受身・投技を習得するとともに、相手のことを尊重し、協力して全員が柔道実技審査に合格することを目標とし、授業に参加する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の着こなし方、礼法、受身、投げの形について理解できるようになる。	認定実技審査要綱	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道実技審査に向けたビデオ鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認 すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形における入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	審判の体験
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	実技試験に向けた演舞、実践練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book (日本スポーツ協会)						
《授業外における学習方法》						
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
毎回の授業の予習復習をしっかりと行い各項目をしっかりと理解しておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングサイクル/構造論/目標論/手段・方法論・計画論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント②/トレーニングと休養のバランス			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 身体のしくみと動き/トレーニングの種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 呼吸循環器系の働きとエネルギー機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 体力トレーニングの原理原則		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 トレーニングの種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキルトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スキルトレーニング】 スポーツバイオメカニクス		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 行動としてのスポーツ スポーツにおける動機づけ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目についてまとめる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	救急処置法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 金・3限	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師ならびにスポーツトレーナーにおいて必要な救急処置を現場で実践できるように理解を深めていく						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:70% 2. レポート: 20% 3. グループワーク中の態度・発表: 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本体育協会 共通科目テキストI 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習 日本赤十字社 赤十字救急法講習 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
配布資料の読み込みと救急法に関心を持ち赤十字などがネット上で公開している救急法の方法について予習、復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
在学中の臨床実習、スポーツ現場実習において知識、技術共に最低限身に付けておかねばならない内容です。実習に参加するためにも、また、夏休み期間中に基礎講習、救急法講座が開催されるため、しっかりと内容の理解に努めてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の意味、トレーナーの役割、応急処置の基本的留意点等について理解できるようになる。	共通科目テキストI 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	トレーナーの活動について調べる。 トレーナーバックの中身について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急処置の基本的知識			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	緊急対応計画や評価について理解できるようになる。	共通科目テキストI 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	スポーツ現場における救急処置について自身の経験を思い出す。 また、実際のスポーツ現場での救急処置について調べる。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ現場における救急処置			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の必要性や注意点を理解し気道確保、胸骨圧迫を実践することができるようになる。	共通科目テキストI 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	前回までの復習。 心肺蘇生法について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置1			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	AEDの使い方や注意点を理解し実践することができるようになる。 人口呼吸の注意点や方法を理解し実践することができるように	共通科目テキストI 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	AEDについて機器や使用方法について調べる。 前回内容の復習。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置2			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の一連の流れを行うことにより、実際に現場で起こった際の対応力を身に付けることができるようになる。	共通科目テキストI 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	心肺蘇生法について復習し、一連の流れでできるように練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置3			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	心疾患、脳血管障害について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	アナフィラシキー、食中毒、薬物中毒について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	低血糖、中毒、食中毒、薬物中毒、アナフィラシキーなどの症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	1つの競技を選択し、その競技中に救急処置が必要になった場合のシミュレーションを試みる。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置2		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	外傷と障害の違い、炎症について理解することができる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	上記8回分の内容の復習。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置1		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	RICE処置やアイシングについて理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾に触れ感触を確認しておく。 赤十字がネットでアップしている三角巾の動画をチェックしておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置2		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	頭頸部・脊椎外傷時の搬送方法や体位変換について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾のたたみ方の復習。 三角巾の本結びが完璧にできるように練習しておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置3		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	救急体制の重要性と計画について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	たたみ三角巾を正確かつ迅速にできるよう練習する。 頭部の手当を練習しておく。
		各コマにおける授業予定	現場における救急体制		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いたたたみ方、きずの手当、提肘ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	鎖骨骨折や足関節捻挫について症状などを調べる。 前回までの手当についての練習を欠かさずに行う。
		各コマにおける授業予定	きずの手当		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた鎖骨骨折や足関節捻挫の手当ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	血液に関する解剖、生理について教科書を予習し、理解しておく。 止血帯止血法で用いるターニケットについて調べておく。
		各コマにおける授業予定	骨折、捻挫の手当		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上記14回の内容について復習を行い、テストにてアウトプットする事により、学習内容の到達度の確認と知識の定着を目指す。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法講習 配布プリント	上記14回の内容の再確認、復習をしっかりとしておく。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	まとめ・期末試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	栄養学		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 火(4)	教室名	301
担 当 教 員	平田 佐千子	実務経験と その関連資格	病院勤務経験、専門学校教員経験 管理栄養士免許、フードコーディネーター			
《授業科目における学習内容》						
栄養学の基礎的な事項とスポーツ栄養の基本的な事項を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 出席 20% 授業態度・参加度 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I 及び III						
《授業外における学習方法》						
配布資料の復習、教科書の予習・復習、用語の確認						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験に直結する教科ではないが、スポーツ分野では栄養知識は必要となり、身体を扱う以上、知っておく知識はあるため、基礎的な内容は習得する必要がある。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養と健康、栄養の概念	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認	
		各コマにおける授業予定	食事と健康、日本の食生活、栄養素の種類と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	炭水化物の種類とその機能、糖質摂取とグリコーゲン回復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質、たんぱく質の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂質の種類とその機能、たんぱく質の種類とその機能、摂取量について、筋肉作りについて			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	水溶性ビタミンの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	水溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂溶性ビタミンの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について、スポーツにおけるビタミン摂取について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	多量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	微量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について、鉄欠乏性貧血とスポーツ、骨作り		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	水分とスポーツ、機能性成分	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	水分の役割、体温調節、水分補給、スポーツドリンク、機能性成分		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収、代謝	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の消化、各消化器官での消化		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収、代謝	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の吸収及び代謝		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	エネルギー代謝と身体活動	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	エネルギー代謝、基礎代謝、エネルギー消費量		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本人の食事摂取基準	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	日本人の食事摂取基準、エネルギー指標、栄養素指標		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	食事設計、スポーツ選手の食事計画		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ選手における食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	期分けによる食事(試合前、試合当日、試合後、合宿期、国内外の遠征、オフ期)、栄養教育		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	配布資料 復習プリント	講義の総復習
		各コマにおける授業予定	基本的事項の振り返りと確認、復習プリント		